
ポケットモンスター メモライズ

白雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケットモンスター メモライズ

【Nコード】

N7378Y

【作者名】

白雪

【あらすじ】

テレビコトブキキャスターのホノカが相棒ナオキと共に取材したり、時には戦い成長したりする。たくさんの人々やポケモンたちとの出会いで彼らの運命は動きだしていく。これは、ポケットモンスターを別の視点で描いた物語。

第1話 メールからはじまる旅（前書き）

懲りずにやりました。

はい、そうです。カッとなってやっただんです。

最後まで見ていただければ本望です。

第1話 メールからはじまる旅

シンオウ地方。

『さて、今日も始まりましたシンオウ・ナウ！さまざまな情報をお知らせしちゃうシンオウ・ナウの時間です。司会は私、ホノカでお送りいたしまーす！』

シンオウ地方全域で放映される『シンオウ・ナウ！』。朝7時の放映はいつも視聴率が高い。番組の内容がおもしろいことも原因の一つだが、やはりホノカの人気が高いことに一番の原因はある。ホノカはシンオウ・ナウの看板、それ程までにホノカの人気は高いのだ。

『最初の最先端シンオウ情報はこちら！まずは、ポケモン研究のコーナーです。レポーターのユウカさん、お願いしまーす』

ポケモン研究のコーナーとは、レポーターやスタッフが体当たりで野生ポケモンに接近し、持っている道具を調査する、というトレーナーに嬉しいお役立ちコーナーである。

『ポケモン研究のコーナーです！今日は野生のポケモンを調べてみましょう！…あら、あれはハガネールみたいですね。ん？何か持っています。何を持っているんでしょう…。近づいて調べてみますね！ちょっと見せてね…』

ユウカはそそくさとハガネールに近寄り持ち物を調べる。するとハガネールは、ユウカに警戒心を抱いてか、かみつくを繰り返してき

「いつ、痛あつ！何すんのよこのハガネールがッ！…指をかまれちゃいました。でも、ハガネールがメタルコートを持っていることがわかりましたよ！ありがとう、メタルコートはハガネールに返すわ…。って、いったあッ！またかまれた！ホント最悪ねッ！…またポケモンを怒らせちゃいました…。それじゃあまたお会いしましょ…。」

う、と言葉を紡ぎかけたとき、ユウカの頭に撮影用マイクがぶつかった。

「ッ！だからあー、あたしにマイクをぶつけるなって言ってるでしょ！まだわかんないの！？もー、今度か」

「えー、次はお天気情報です！ヒマワリさんとポワルンちゃん、よろしくお願いしまーす！」

ユウカの怒声をこれ以上放送させまいと、ホノカが無理やりお天気コーナーに移す。でもたぶん視聴者は毎度の事なので慣れていてあまり気にしていないと思う。

「っあー、終わったーっ！」

シンオウ・ナウの収録が終わった後、私はいつもこうして伸びている。けっこう疲れるんだよね、これが。ずっと笑ってるし、いい姿勢でいなきゃダメだし。大変だけどやりがいのある仕事だから続けられる。私もシンオウ・ナウの看板にまで上り詰めることができたし。

「あつ、ナオキー、ジュース持ってきて」

私が今使い走りにしたのはナオキ、私の幼馴染でカメラマン。ぶっちゃけ弟みたいな存在である。ちよつと気が弱めだしね。

「はい、コレでいいの？」

最初の頃はぶつぶつ言いながら持ってきてたけど、いつものことだから慣れたみたいで今は有無も言わずパシられている。ちよつと可哀想に思っけど、その辺はあまり気にしないでおきたいと思っ。

「うん、ありがとー。…あれ、局長からメールだ。何かな？」

局長からメール、しかもタイトルが『緊急!』だなんて何かな？

「えーと、コガネラジオに出演決定、10時出発のキツサキシティから出る船に乗れ…?今8時よ!？」

2時間でキツサキシティに行くには飛行機かポケモンのそらをとぶを使用しないと辿り着かない。使わずに行くのは至難の業だ。

「…行くわよナオキ、持ち物は大丈夫でしょうね!？」

「え、僕も!？」

「当たり前でしょ!トゲキツス、そらをとぶ!」

私たちはキツサキシティに向かって旅立ちました。

第1話 メールからはじまる旅（後書き）

白雪でごめんなさい。

これからも頑張ります。

少年ナオキに幸あれ。

第2話 港町に来ました

午前9時50分、キツサキシテイ。

「っ、着いた…」

トゲキツス最速スピードでかつ飛ばしてきたホノカは少し酔っている。対称にナオキは全くと言っていい程酔っていない。元気にキツサキシテイに降り立っている。

「早くキツサキロイヤル号に乗ろうよー！」

選ばれた人の招待状なしには乗れないキツサキロイヤル号。今は局長の権限を行使して乗らせてもらっている。つまり、一般人は乗れないということ。そんな豪華客船に乗るのだから、ナオキのテンションが上がるのも当然の理であろう。もちろんTVでも放送されることは滅多にない。

「わ、わかったわよ…ああ、船なら大丈夫よね…」

ホノカは歩くこともままならない状態で船に乗り込んだ。

午後3時、アサギシティ。

『遠く離れた異国に最も近い港町』がキャッチコピーのアサギシティは、船の出入りと比例するように、人の出入りも多い。町の北方にはモーモー牧場があり、アサギシティの有名スポットとなっている。ここ最近では近くのバトルフロンティアがオープンしたことも手伝い、トレーナーやブリーダー、勿論観光客など様々な人々で満ち溢れるようになった。

「うぶっ…。船も無理…。自家用車かスピードが遅いポケモンじゃなきゃ乗れないわたしって…」

船酔いを起こしたホノカはアサギシティの船乗り場待合室にてナオキがモーモーミルクを買ってくるのを待っている。どのポケモンでも基本的には乗れるが、彼女が乗れないのは自身のトゲキッスの最速スピドver.か、ガブリアスクらいのものだろう。しかし、水上となると話は別。波乗りで移動することは地獄といっても過言ではないほどに具合が悪くなるらしい。

「うーん、今日ここに泊まるんじゃ、エンジュは観光できないかな…。っっていうか、帰りも船だろうな…。どうしょ、気合いで乗り過ぎしてみるかな」

気合いで乗り物酔いが克服できた人を見たことがないけどとりあえず口にしてみたホノカ。

「局長からメールだ。何だろ？」

『船酔いは起こしていないかい？さて、肝心な収録日を教えよう。それは…明後日だ。とりあえず明日の7時にはコガネシティのジム前にいておくれよ。一応帰りはコガネ駅発カントーのヤマブキシティ駅着のリニアに乗って、クチバ港でアクア号に乗ってミオシティ

まで来て、そこからはホノカくんのトゲキツスの遅いスピードで帰ってきたまえ。アクア号では酔わないと思うよ。それと、リニアとアクア号のチケットはポケギアに送ったからね。収録頑張りたまえよ。テレビコトブキ局長」

「「明後日え!?!」」

帰ってきたナオキも一緒に叫ぶ。

「あ、お帰り…」

「正確には明日の7時がタイムリミット…。今日エンジンに行かないと間に合わないよ。早く出発しないと!」

急いで準備をするナオキにホノカが続く。今からエンジンシティに出発したら、着くのは恐らく午後6時。午後6時からまた出発するのは危険を伴うので、今日はエンジンシティのポケモンセンターに泊まるのが賢明な判断だ。

「船酔いが収まってないと思うけど、行くよ」

そういつた瞬間、ナオキのポケギアが鳴り出した。

「あ、電話だ。ちょっと待ってて」

【ホノカさん視点】

「あ、電話だ。ちょっと待ってて」

ナオキはそう言った後、待合室の隅っこに移動した。

「あーもしもし、………さんですか。今日は、………なくなっただです。………が………なんで。………に………ないのは残念ですが、また………」

あんまり聞き取れないな、なんて思ってたらナオキが話し終わったみたいでこっちに向かって歩いてきた。

「じゃ、行こうか」

ナオキって意外と謎が多い気がする。

第2話 港町にきました（後書き）

がんばりますた。また読んでください。

第3話 ホノカさん、キレる(前書き)

すみません。

間空きましたね。

マジですいません。

第3話 ホノカさん、キレル

エンジュシティ。

「こ、これは…」

エンジュシティには『まいこはん』という人物が多数存在する。シンオウ地方ではそれこそテレビくらいでしか見たことのない代物で、ジヨウト地方へ行く修学旅行では、必ずと言っていいほど『まいこはん』を見るためエンジュシティに寄る。ほかにも歴史的に貴重であるスズの塔や焼けた塔を見学するために、という目的も存在するのだが。

「エンジュシティって初めて来たけど、ホントにまいこはんっているのね〜」

売れっ子ホノカが大都市エンジュに初めて来た理由は、勿論船酔いのせい。飛行機は乗れるのだが、スケジュールを考えて、いつもエンジュのロケを断念している。

「ホノカ、ポケモンセンターにチェックインしよう。観光はそれからでも遅くないし」

現在の時刻は6時。予定時刻ぴったりだ。エンジュといえば夜。まいこはんが活発に行動する時間帯に観光するのがベストだと言える。昼間はコガネシティかスズの塔あたりにも行って時間をつぶす観光客が多い。

「…わかった」

渋々ホノカは頷いた。

翌朝、午前10時。

「ヤバいつ！急がなきゃ！」

ふつう、コガネシティーエンジュシティ間の移動に要する時間は5時間ほどである。午前10時から行けば着く時間は大体3時。約束の7時まで4時間ほどある。何故2人がこんなにも急いでいるのかというと、12時30分から自然公園のとなり位置するポケスロで試合が行われるからである。ホノカはメールで局長にポケスロの中継を1試合（ちなみに1試合に要する時間は1時間くらい）流したい、という理由で12時20分までに会場の中まで来るよう依頼されていた。コガネシティーエンジュシティ間のちょうど中間に位置しているので、要する時間は大体2時間半。単純計算すると10分遅刻するということである。トゲキツスを使えばいいのだが、何せホノカは乗り物酔いしやすい体質。回復に30分はかかるので空を飛ぶことは断念した。

「あーもう、なんで今頃メールすんのよ局長！」

「突然の事らしいからね」

急いで短気になっているホノカとは対照的に呑気に話すナオキ。

「なんでアンタはそう香気なのよ!」

一方、同時刻、同所にて。

「…?あの人は…!」

男はまさか、というような目で見つめる。

「ムウマージ、サイコネシス!」

そして男は、ポケモンの技で体を宙に浮かせ、その男の下へと向かう。

「やっぱり…」

男は、すっと地に降り立った。

第3話 ホノカさん、キレる（後書き）

なんか謎の展開ですね。

第4話 人、現る

ホノカです。ただいま意味の分からない状況になっています。

なんで人が宙に浮かんでるの…。とりあえず身の危険を感じるので、倒したいと思います。

「パチリス！でんこうせつか！」

パチリスに『宙に浮かんだ人に向かってでんこうせつか』を指示する。

「え、待って、僕は怪しい人じゃなぎやあああああああ！」

ふっふっふ、悪は滅びるのよ！とでも言わんばかりのパチリスの顔。実際、私もそんな顔してると思うけどね。犯人は全員、僕は怪しくないと言い張るのよ！誰がそんなこと信じるんです？とかいろいろ思ってたらナオキが話しかけてきた。何、文句でもあるわけ？

「ホノカ…この人はエンジュシティジムリーダー、マツバさんだよ」

え、ヤバ。どうしよう。

【ナオキくんサイド】

「すみません！まさかジムリーダーだとは夢にも思わなくて…」

「いやいや仕方ない、僕もサイコネシスを使って宙を浮いてきたんだ。怪しい人だと思って、当然だよな」

ホノカとマツバさんは2人で謝り合っている。僕としては、ポケスロンに早い所行った方がいいと思うんだけどなあ…あと1時間しかないし。道のりは2時間分あるけど。間に合うとは到底思えない。

「あのー。僕たち先を急いでるんで、もうそろそろ行ってもいいですか…」

「何言ってるのよナオキ！相手は仮にもジムリーダーよ！いいわけないでしょ！」

ホノカに即座に怒られる。僕って弱いね。

「ふーん、どこに行くつもりなんだい？」

「ポケスロンです！」

「そうか、じゃあお詫びもかねて僕のフワライドで送るよ。フワライド！」

マツバさんはフワライドを呼び出す。マツバさんのフワライドは大きすぎて道を圧迫している。その辺のトレーナーも驚いているようだ。

「じゃあ、行こうか」

マツバさんのフワライドに強引にのっけられ、ポケスロンへの道はまたスタートしたのだった。

「「ありがとうございます」」

「いいよお礼なんて、じゃあ僕はこれで」

マツバはフワライドに乗って颯爽とエンジュシティの方向に向かっていった。

「はー、まさかジムリーダーさまと会えるなんてね。でもなんでこんなところにいたんだらう?」

ホノカはうーん、と首をかしげる。確かに、用事もないのにあんなところにいるのは変だ。ナオキも少なからず疑問に思っているようだが、話を変えた。

「ホノカ、あと5分。待ち合わせまであと5分だよ!」

「あっ、ホントだ!早く!」

ホノカとナオキはマツバのことなんかすっかり忘れてポケスロン会場へと向かって走って行った。

第4話 人、現る（後書き）

マツバ「僕の事なんかすっかり忘れて…か」

作者「ごめん。だって忘れちゃうじゃん、焦ったら。全国のマツバファンの皆様、ごめんなさい」

ホノカ「次回をお楽しみに！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7378y/>

ポケットモンスター メモライズ

2011年12月11日11時46分発行